



# 台風委員会マカオ ワークショップ 参加報告

加藤 誠章

かとうのぶあき

(財)砂防・地すべり技術センター  
企画部 技師

## 1 はじめに

2006年9月4日より8日までマカオにて台風委員会のワークショップ（Workshop on Integrating Activities of the Hydrology, Meteorology and DPP(Disaster Prevention and Preparedness) components of the Typhoon Committee into the Related International Frameworks for Disaster Risk Management for Better Impacts and Visibility）が開催されました。本稿では本ワークショップについて報告します。

## 2 台風委員会ワークショップ

台風委員会は1968年にWMO（世界気象機関）とUN-ESCAP（国連アジア太平洋経済社会委員会）が共同で設立した組織で、ESCAPの加盟国・地域での台風による被害を最小限にすることを目的としています。

台風委員会には気象・水文・防災の三つの部会があり、部会ごとのワークショップと全体の総会を毎年行っています。近年では総会はタイ、マレーシア、中国、ベトナム、水文分野のワークショップはフィリピン、中国、韓国、マレーシアなどで行われています。

今年のワークショップは三つの部会の共催という形で初めて開催されました。本年のワークショップには、カンボジア、中国、北朝鮮、中国・香港、日本、ラオス、中国・マカオ、マレーシア、フィリピン、韓国、タイ、アメリカ、ベトナム、WMO、ESCAP、TCSから約70名が参加しました。

日本からは、下記の方々が参加しました。

- 内閣府政策統括官付 企画官 青木 栄治
- 国土交通省国総研砂防研究室 主任研究官 水野 秀明
- 気象庁太平洋台風センター 所長 萬納寺 信崇
- (財)ダム水源地環境整備センター 調査第一部長 三宅 且仁
- (社)国際建設技術協会 研究第二部長 伊藤 和久
- 同 上席調査役 久保 忠雄
- 同 主任研究員 荒木 秀樹
- (株)建設技術研究所 主幹 佐々木 明
- NPO日本水フォーラム プロジェクトリーダー 鈴木 研司
- (財)砂防・地すべり技術センター 加藤誠章

また、日本以外から参加された日本人の方々は下記の通りでした。

- UN ISDR, Platform for the Promotion of Early Warning Officer in Charge, 小野 裕一
- WMO, Tropical Cyclone Programme Chief, 黒岩 宏司

ワークショップでは、参加各国の情報交換、進行中のプロジェクトの進捗状況の報告と台風委員会の今後のあり方について議論がなされました。

### 3 砂防関連のプロジェクトについて

砂防分野では日本が座長国となり、土砂災害に対する警戒基準雨量の設定手法を各国に構築することを目的として「Establishment of flash flood warning system including debris flow and landslide」というプロジェクトが進行中です。

本プロジェクトでは、2005年までに各国にパイロット地区を設けて警戒避難基準雨量の設定、検証を行い、2006年以降にはパイロット地区以外の地域へ拡充していくというプロセスを経るという計画です。警戒避難基準の設定のガイドラインは日本が作成したもので、CLの設定方法が記載されています。

日本からはプロジェクトリーダーである水野主任研究官より、プロジェクトの概要の説明、日本の警戒基準雨量についての最近の取り組み、各国の進捗状況の報告、技術的なヘルプデスクの設置などについての発表がありました。

技術的なヘルプデスクについてはウェブ上に設置し、基準雨量の設定に関するガイドラインのダウンロード、メンバー国からの質問に対して日本からのメールによる回答、Q&A情報の共有を行うことが提案されました。

また、本プロジェクトでは、中国、香港、マレーシア、韓国、タイ、アメリカから各国の取り組み状況についての発表がありました。各国のプロジェクトの進捗状況には大きな差があり、中国やマレーシアのようにパイロットエリアで実運用しているメンバーがある一方、発表しなかった国では運用が進んでいない状況がありました。これらの国が今後どのように取り組んでいくかが課題となります。

### 4 おわりに

今回のワークショップではその他にも多くのプロジェクトについて議論がありました。その中でも砂防のプロジェクトは、費用もあまりかからないものであり、多くの出席者から好評を博していました。

台風委員会のメンバー国では現在も土砂災害による死者が毎年多数発生しています。今後は、他の砂防技術もあわせて積極的に海外に技術移転を進めていく必要性を改めて感じました。



会議風景



建設中の台風委員会の事務所



マカオタワーから望むマカオの風景